

令和4年度 白馬村人・農地プラン懇談会 会議要旨

日時：令和4年11月21日（月）13：30～15：00

場所：白馬村役場201・202会議室

【進行：農政課柏原土地改良係長】

1. 開 会

【農政課田中農林係長】

開会を宣言。

2. あいさつ

【農業委員会松沢会長】

今まで、これだけの担い手、農業関係者(35名)が一堂に会する会議は今までなかったかと思う。白馬村は米に依存している地域であり、米価の上下に左右されてしまう。北城地区では、ほ場整備が進んでいる。主な担い手のは神城地区に集まっており、北城地区は(有)マイテカルに任せきりというのが実情。(有)マイテカルも営農できる面積は限られている。ほ場整備を契機に神城・北城という地域を分けない形で、関係者で相談しながら農地保全等について意見交換ができればと考えている。本日はよろしく願いたい。

【農政課田中課長】

本日の懇談会の内容は、大きく3つある。1つめは、人・農地プラン法定化等の国の方針の説明。2つめは、国の方針に基づいた、村の現在の状況と今後について、3つめは、村の肥料資材等高騰対策事業についてである。

現在の村の、人・農地プランは、神城・北城・青鬼の3地区。今後、高齢化や人口減少により農業者の減少や耕作放棄地が拡大し、農地が適正に利用されなくなることが懸念される中、村では、北城の2地区で、ほ場整備事業を推進しており、今後、認定農業者を中心とした効率的な農業、農地の集約化のために、神城・北城の人・農プランは統合することが必要と考えている。村の肥料資材等高騰対策事業は、令和4年11月議会にて予算をお認めいただき、認定農業者及び一般農業者(2ha以上)を対象とし、農業再生協議会を通じ、営農規模により各農業者へは年内に交付金を支払予定である。

3. 会議事項

(1) 白馬村の実質化された「人・農地プラン」と担い手の状況について

【農政課降旗営農支援センター事務局次長】

「資料1-1(実質化された人・農地プラン)、資料1-2(各地区の担い手状況について)」のとおり説明を行った。

(2) 「人・農地プラン」の法定化について

【北アルプス農業農村支援センター農業農村振興課丸田主事】

「資料2(地域計画(人・農地プラン)について)」のとおり説明を行った。

(3) 北城ほ場整備について

【農政課柏原土地改良係長】

「資料3-1(経営体育成基盤整備事業北城南部地区)、資料3-2(北城北部地区ほ場整備計画平面図イメージ図)」のとおり説明を行った。

(4) 北城北部地区の国土調査について

【農政課下川国土調査係長】

「資料4(国土調査事業(地籍調査)について)」のとおり説明を行った。

(5) 農業振興地域見直しについて

【農政課大塚主査】

「資料5（農業振興地域整備計画の変更計画について（概要）」のとおり説明を行った。

(6) 肥料・資材高騰対策について

【農政課澤元主査】

「資料6（新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金における「電力・ガス・食料品等価格高騰重点支援地方交付金）」のとおり説明を行った。

【JA 大北北部営農センター藤巻センター長】

・「資料6-JA（肥料価格高騰対策のごあんない）」のとおり説明を行った。

● (1) ~ (6) について、質疑はなかった。

4. 意見交換

【北城南部地区ほ場整備実行委員会武田実行委員長】

平成30年に事業採択され、かなりの年月が経過している。その間専門委員会等の開催を経てようやく令和2年に工事着工に至った。現在でもつくり土が不足している問題がある。松川村や安曇野市と違う状況で客土をする必要もあった。現在第1, 2工区が工事完了しており、一時利用地として担い手に耕作いただいている。第3, 4工区については高収益作物を行う必要がある関係で、畑の面積が多くなるため、担い手の割り振り等を今後検討していかななくてはならない状況。

【農政課柏原土地改良係長】

米価が下落傾向にあり、費用対効果のため、ほ場整備の面積の約1割から2割程度の米価より高単価の作物を作付けする必要がある。北城南部・北部地区ほ場整備では高収益作物について実行委員会を中心に検討いただいている。

【八方地区太谷和久区長】

有害鳥獣被害が多い。被害に遭うため、とうもろこし等を作っている人いない。高収益作物は特にサルなどの被害を受けやすい。被害防止に係る予算をとっていただき対策いただきたい。農地を大きくしても被害が増えてしまうのであれば離農につながってしまうのではと心配もある。

【農政課田中農林係長】

ご指摘のとおり、有害鳥獣被害が多くなっている。対策としては、主に電気柵設置になる。ただ、ほ場の形が不整形であれば設置は難しくなる。ほ場整備済の地域については、できるだけ鳥獣被害対策として電気柵設置を取り組んでいきたい。また、サルについてはある程度捕獲し、動向を把握しないと対応できないと考えている。鳥獣による被害などあれば農政課までご連絡いただければ対応したい。いずれにしても、農家の皆さまのご協力をいただくようになるので、改めてよろしくお願いしたい。

【白馬農場津滝代表取締役社長】

白馬村として、人・農地プランの計画を何年度までに見直す予定か。また、農家にとって農地の集約化を進めなくては手に余ってしまう。今の体制では今後やっていけなくなると思うが、何か計画はあるか。

【農政課田中課長】

人・農地プランの見直しについて、法制化され、令和7年3月までに見直す必要があり、令和5年より徐々に作業を進めていく。その前段として担い手農家の方に簡単なアンケートを実施した。また、大規模農業法人3社あるが、限界との意見もある。今すぐ対応できるということではないが、新規就農者育成は対策のひとつである。新規就農者も色々な考え方、技術差もあるが、やる気ある新規就農者を地

域で育てていければと考えている。また、村としては農振農用地の見直しに着手したいと考えている。今後、守るべき優良農地の分母を減らす必要がある。優良農地以外の農地は農振を見直し判断する。移住者対策の対応も考えたい。

5. その他

【農政課澤元主査】

認定農業者、認定新規就農者向けの農業機械等購入支援を白馬村で行っている。現在補助率について、費用の1/2、上限50万円までとなっている。農業機械が高額であり、上限引き上げについての話がある。ご意見等あればお聞かせいただきたい。

●意見等特になし

【農業共済北アルプス支所横川担当】

・「資料（長野県における農作業事故の実態、着けててよかったシートベルト）」の説明を行った。トラクターの横転など農業事故における死亡事故が増えている。熱中症などの報告も増えている。疲れが溜まった時間帯の事故が多いのでご注意いただき農作業いただきたい。

【有限会社マイテカル福島代表取締役社長】

白馬村は観光と農業。観光を栄えさせるためには農業を栄えさせなければいけないと半世紀前から言われている。北城地区で農業やっているが、農家辞めた方の中には民宿を辞めた方も多と感じている。米価が下落している中で米作ってもお金にならないということもあるかと思う。今後は農業と観光のことについてもっと議論をしていかなければならないと思う。自分で食べる米は自分で作ることを基本にしなくては、自分で食べる米がなくなるような時代にならないとも限らないと感じている。

【白馬村議会津滝産業経済委員長】

優良農地の確保等は議会でも課題。北城南部地区は耕作できないような、ほ場が多く、現在、ほ場整備進めていただいている。北城北部地区も地権者の同意を得ながら進めていると聞いている。農業が白馬村を支えていることは事実。また、農家の皆さんが生き活きと農業ができるよう、週末マルシェをスノーピーク白馬で開催したり、ハピアで直売所を展開したりし、地産地消を行っている。道の駅の拡充の必要性も承知している。これらの課題を議会として、行政へ働きかけをしていきたい。

地元事業者も地元の米、野菜等を使用したいと考えているが、価格面で折り合い付かないこともある。地元業者があまり価格を落とさずに納入できるような形にしていくべきと思う。また、子どもたちへの食事の提供ということで、給食センターに優先的に納入できるようアプローチをしている。

本日は、人・農地プランに位置づけられた担い手の方が多く出席されているが、大きな課題は、畦畔の草刈りだと思う。他地域でも同様。スマート農業として、自走の草刈り機等あるが、価格が高額となっているため、補助金など検討いただきたい。地権者の高齢化も進んでいるため、多面的機能に地域で加入していただき、地域で農地を守っていくことを検討していただきたい。皆さまご協力のもと草刈りをできる仕組みができればと考えている。

生産調整を行っているが、国から5年水張りしていないほ場について、転作の補助金から除くという話がある。水田は水が必要であり、そばは水が必要ではないということで真逆のことであり、困ってしまう。議会からは要望書というものを提出しているが、皆さまからも要望を上げていただければと思う。このことについて、県で情報あればよろしくお願ひしたい。

【北アルプス農業農村支援センター技術経営普及課佐原専門幹】

新しい情報はない。量に見合った米作りが定着している中でそれを進めれば進めるほど農家が損をするような制度になりつつあるので、それは困るという話は国にしている。新しい情報が入り次第、お伝えしたい。

6. 閉会

【農政課田中農林係長】

閉会を宣言。